

教育研究所だより



No.238 令和6年3月15日 【発行者】守山市教育研究所 所長 脇阪 久徳
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター 3・4階)
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237
E-mail:kyoikukenkyu@city.moriyama.lg.jp
HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyu_index.html



令和5年度 教育研究発表大会



守山市教育研究発表大会を2月14日(水)に開催しました。ご来賓の皆様をはじめ、市内の先生方や保護者・地域の皆様にも多数ご参加いただき、本当にありがとうございました。

大会の前半では、4年ぶりに行われた中学生海外研修派遣団による報告と全国学力・学習状況調査の考察についての報告、当研究所研究員による「指導力向上に関する研究」報告をしました。そして、後半の教育講演会では、たねやグループ CEO 山本 昌仁 様から講演をいただきました。

【中学生海外研修派遣団報告】

○守山南中学校・守山中学校・守山北中学校・明富中学校

：米国ミシガン州レナウイ郡エイドリアン市

中学2年生8名(各校2名)が派遣され、アメリカの首都ワシントンDC と自然豊かなエイドリアン市の二つの市を訪れ、初めて知ったことや日本との違いなどについて感じたり、考えたりしたことを報告しました。報告の最後には一人ひとりが英語でスピーチを行いました。自信をもってスピーチする姿から、充実した研修だったことを感じる事ができました。6月には、エイドリアン市から8名の生徒が来日し、それぞれの中学校で一緒に学習するそうです。さらに、国際的な視野を広げ、親善の輪を広めてほしいです。



○立命館守山中学校：大韓民国忠清南道公州市

中学2・3年生、8名が派遣され、4年ぶり2回目の交流を行いました。報告は中学2年生の4名が担当し、現地中学校での学習やホームステイ体験などについて動画を交えながら発表しました。楽しく充実した研修であったことが感じられました。また、10月に公州市から8名の生徒が来日し、一緒に授業を受けたり、休み時間を過ごしたりして交流を深めたようです。この経験をこれからの生活に活かしてほしいです。

【全国学力・学習状況調査の考察】

学校教育課の西村指導主事より報告を行いました。小学校、中学校共に、ほとどの教科でも全国平均を上回っているが、「根拠を示して」回答することや、基本の「定着をめざす」ことの大切さなどを提言させていただきました。

また、ICTの活用については、すべての学習においてICTを使わなければならないのではなく、活動内容に応じて、ノートや板書などと並行して活用していくことを確認させていただきました。

子どもたちの課題を知ることは、授業改善につなげる大切な視点です。子どもたちの課題に向き合いそれぞれの立場で守山市の学力向上について考えるきっかけになればと思います。



【指導力向上に関する研究発表】

当研究所の折木 公美 研究員から「子どもが話し合う、子どもが動き出す、とっておきの学級活動Ⅱ」と題し、昨年度の研究で分かった「教師の適切な指示や助言の重要性」を研究協力校の学級会の実践を通して発表させていただきました。この研究発表が、少しでも先生方のお役に立てればと考えております。また、世界が注目している「日本のTOKKATSU」が守山でさらに推進されることを願っています。



【教育講演会】



たねやグループ CEO 山本 昌仁 様より、「たねやグループのビジョン～手塩にかけて育てる心～」と題して、お菓子づくりに対する思い、経営者としての思い、これからの時代を見据えた考え方をお話いただきました。業種は違いますが、教員と重なる部分もあるのではないかという思いから今回の講演をお願いいたしました。お菓子作りのことだけ考えるのではなく、お客様や従業員を大切にされていること、そして環境にも目を向けて活動されていること等様々なお話をお聞きすることができました。家庭、学級、学校に置き換えて、これからの教育実践や子育てに、少しでも活かしていただければと思っています。

<大会参加者の感想より>

○中学生海外研修派遣団報告

- ・海外に対して、子どもたちの様々な気づきを知ることができた。中学生などの時期に国際交流など経験することはとても大切なことだと感じた。(教職員)
- ・アメリカで見つけた日本との違いをうまくまとめられていた。スライドも見やすく分かりやすかった。生徒たちの素の思いを聞くことができた。(教職員)
- ・中学生の皆さん、よく頑張っておられた。英語のスピーチもよかった。アメリカで感じてきた気づき、驚きを素直に表現できていた。この経験を生かして行ってほしい。発表会の機会を今後も作って発信するだけでなく、外国の人に日本のことを伝えるなど新しいことにもチャレンジし、次の探究のサイクルにつなげてほしい。(保護者)

○全国学力・学習状況調査の考察

- ・学習調査は、子どもたちの学力を測るものだと思っていましたが、課題を検証し、先生の関わりの改善のためのものだということが分かり、見方が変わりました。(教職員)
- ・小中学校共に、ほぼどの教科でも平均を上回っているが、学校間で差異があると思うので、さらに授業改善に取り組む必要があると思われる。(教職員)
- ・守山市内の各校の結果を元に、学力の差がないよう努力してほしい。(教育委員)

○教育研究発表

- ・とても分かりやすい内容で、子ども自身が生活の場をよりよくしようとする主体性や自分事として捉える力が育つ過程がよくわかりました。(教職員)
- ・小学校で学級会の方法が身についていると中学校でも話し合い活動がやりやすくなります。小中で連携した取り組みが必要だと感じました。(教職員)
- ・子どもたちが楽しく課題に取り組み、楽しく行動する姿がとてもよかった。(一般)

○教育講演会

- ・菓子屋さんだから菓子のことだけを考えるのではなく、それに関わる素材やその背景にある環境、また、携わる人など、とても奥深いところまで考えることが今の発展につながっているのだと思った。私たちは、教育のことだけ考えていくのではなく、もっと広い視野で人を育てるとはどういうことか考えることが大切だと思った。(教職員)

- ・自分で1から10まで育てることで、“嫌い”だったものが“好き”になる瞬間を子どもたちと一緒に“喜び”を感じていきたい。米粒一つ一つを大切にすることなど、手を抜きそうになることを一つ一つ丁寧に“人”と接していきたい。(教職員)
 - ・“空気の読めない経営者はつぶれていく”というような冒頭の言葉が心に残りました。“売り手よし買い手よし世間よし”を学校現場に置き換えてDXを推進していけたらいいなと思いました。(教職員)
 - ・「たねやで働けて良かった」という思いと同じように、「ここで学べてよかった」と思える学級にしたいです。(教職員)
- ※DX(デジタルトランスフォーメーション):デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること
- ・たねやさんの社員教育は若手教員の指導・支援にも生かせると思った。限られた時間ではあったが学ぶべきことの多い講演でした。(教職員)
 - ・「社会の空気をつかむ」という点は、多様化する現代の学校現場においても非常に大切になると感じました。一人一人の子どもたちと向き合う姿勢を今後も大切にしていきたいと思います。(教職員)
 - ・「当たり前のことを当たり前に行っていく」ことは、本当に難しいことだと思いますが、それだけではなく、「自分の味を出す」ことも頑張りたいと思いました。(教職員)
 - ・米粒一つくらい捨ててもよい、お菓子一つくらい失敗してもよい…その考え方はプロフェッショナルとしては失格という言葉に、私たち教師も生徒を同じように見ているか、また見ていかないといけないと改めて強く感じました。(教職員)
 - ・いかに先を見通して、今のニーズに応じた取り組みをしていくことが大切かを学んだ。(保護者)
 - ・“当たり前のことを当たり前につけていく”大切な言葉ですね。(一般)

『 集まれ思いやりの心 優しさヤマモリヤマ 』

守山市中学生生徒会サミット 募金活動実施



1月1日 16時10分頃石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する地震が起きました。ここ守山でも大きな揺れを感じました。

テレビ放送からは、「テレビを見てないで逃げてください」と叫ぶようなアナウンサーからの避難の呼びかけが、大変なことが起こったことを伝えていました。やがて、日がたつにつれ、深刻な被害状況が明らかになり始め、幼い子どもや中学生の被害も伝えられてきました。

守山市中学校生徒会は、何かできることはないかと考え、「集まれ思いやりの心! 優しさヤマモリヤマ」を市内共通のスローガンとし、能登半島地震の支援につながるよう、市内中学校が協力して、募金活動に取り組みました。

校内での募金を始め守山駅前や市内大型量販店での街頭募金にも取り組みました。また、募金活動の様子がマスコミで報道されると、「素晴らしい活動をしている中学生をぜひ応援したい」と、地域の方から守山中学校に募金が届けられるということもありました。

守山市中学校生徒会サミットは、生徒の自治能力や主権者として積極的に社会参画する力を伸ばしていくことを目的の一つとして活動していますが、中学生の活動がこうして社会を動かす力となり得ることもあらためて実感しました。

なお、集められた募金418,115円は、日本赤十字社滋賀県支部守山地区長 森中高史 守山市長に生徒代表者より届けられました。

温かい募金を本当にありがとうございました。



今年度の研究について



教育に関する調査研究

★研究主題 『若手教員のよりよい子ども支援のための教育相談のあり方』

★研究の内容

市内小中学校の教員を対象に、教育相談に関するアンケート調査や聞き取り調査を実施し、そこから、1～5年目の若手教員の課題を把握しました。その内容をふまえて、『若手教員のための教育相談ハンドブック』を作成しました。



教育相談に関するアンケートでは、たくさんのご意見をいただき、大変参考になりました。研究においては、若手教員の皆様のご意見を中心に活用させていただきましたが、その他の先生方のアンケート結果についても、学校現場や学校教育課と共有し、今後に生かしていけるように考えております。貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

指導力向上に関する研究

★研究主題 『子どもが話し合う、子どもが動き出す、とっておきの学級活動Ⅱ
ークラスづくりは学級会からー』

★研究の内容

小学校の学級活動の実践を通して、「子どもが自ら課題を見つけ、他者と協働しながら課題解決に向かって、自主的、実践的に取り組む態度の育成を図る」ことを目標に研究を進めました。また、昨年度作成した「話し合い活動リーフレット」の活用を広げ、よりよい学級活動の実践を、市内に定着させていけるよう取り組みました。

研究にご協力いただきました研究協力員・特別協力員の皆様、本当にありがとうございました。また、「教育相談に関するアンケート」「学級活動に関するアンケート」にご協力いただいた、市内小中学校の先生方、ありがとうございました。

来年度も、本研究所の研究にご協力をよろしくお願いいたします。

研究成果物について

これまでに教育研究所が発行した研究成果物をご紹介します。配布されていない先生方につきましても、「Google Chrome→ブックマーク→守山市せんせい情報共有の窓→教育研究所」から、ダウンロードや印刷ができます。ぜひご活用ください。



★令和3年度成果物
「ユニバーサルデザインの考えを取り入れた学級づくり・授業づくり実践ハンドブック」



★令和4年度成果物
「子どもが主体的に学びに向かう授業づくり実践ハンドブック」



★令和4年度成果物
「子どもが話し合う、子どもが動き出す、とっておきの学級活動リーフレット」



★令和5年度成果物
「若手教員のための教育相談ハンドブック」
※令和6年4月に
配布予定

～ くすのき教室について ～

「くすのき教室」は、さまざまな理由で学校に行けない、行きにくいと感じている子どもたちが安心して過ごせる場として開設しています。学校とは別の学びの場として、個に応じた活動や小集団での活動を行っています。外部講師に来ていただいて本格的な体験をする機会もありますが、日常的な活動も大切にしています。くすのき教室での経験を通して、社会とつながり、社会で安心して過ごせる力を育めるような支援をめざしています。



～ 本の紹介 ～

子育てに正解はありませんが、子どもたちがいかに日々を楽しく過ごすことができるか等、悩んだ時に、参考になっている本がありますので紹介します。

最先端の新常識×子どもに一番大事なことが1冊で全部丸わかり

子育てベスト100 (加藤紀子著 ダイアモンド社)



この本には、子育てに関する様々なことについての具体的な方法が100個集められています。「コミュニケーション力」「思考力」「自己肯定感」「創造力」「学力」「体力」の6つのセクションに分けて書かれて、心理学などの研究成果から有用な情報をまとめられています。子育てで悩んだ時や、不安で心配な時に、お勧めの本です。



今年度のおわりにあたりまして

教育研究所では、学校現場および教職員から信頼され頼りにされる教育研究所であり、保護者や児童・生徒のよりどころとなる教育研究所であるよう、運営に努めてまいりました。特に今年度は研修事業におきまして、先生方にとりよりよい学びの場となるように研修スタイルの見直しを行いました。日々の経験や他者から学ぶという「現場の経験」を重視した実践的な学びを取り入れるとともに、教員のキャリアステージに応じた研修等を企画しました。また、教育研究発表大会につきましても、多くの先生方が参加できるよう、来年度からは8月開催へと変更を予定しております。これからも、学校現場の思いを大切にしながら、一人一人の教職員が主体的に学び、学びあえるよう研修のよりよい制度設計を進めて参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

なお、来年度より子どもや家庭が抱える不登校等、教育上の課題解決に向けた支援を充実させるため、現行の教育研究所の教育相談・教育支援機能を強化し、不登校支援の拠点として「守山市教育支援センター」として新たに発足する予定をしております。

私たちは、教職員や保護者の願いに真摯に耳を傾け、これからも、お役に立てる教育研究所であり教育支援センターであり続けるよう、取組を進めていきたいと考えております。

最後になりましたが、今年度の研究所事業推進に際して、ご指導ご協力を賜りました多くの皆様へ、所員一同心より感謝を申し上げます。

今後とも、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。